

- 1 主 題 ゆきひょうのライナ<D-(17) 生命の尊さ>
- 2 資料名 ゆきひょうのライナ（出典 どうとく2 みんなたのしく）
- 3 本時の指導

（1）ねらいとする道徳的価値について

昨今では社会にもものが溢れ、食事の形態も多様である。既に料理として完成されたものを口にする機会は家庭でも増えており、一つ一つの食材について考えることは減少している。学校での食事である給食も既に出来上がったものを食べるため、出てくる食べ物に対し他の生命をいただいているという意識をもつことは難しい。また、2年生にとって、食べ物を目で見たとときや口にしたときに、動物の元の姿やどの部位を食べているかを考えることは難しく、昨日生きていた動物が今日口にしている食べ物になるという事実は認識しづらいと考える。

今回の授業を通じて、食べ物として生きている動物の生命をいただくことを認識するとともに、そのことに感謝する気持ちを高めさせたい。

（2）児童の実態について

本学級の児童は、給食の際に自分の食べられる量を考え、最初に調節してから給食を食べている。そのため、残飯の量は少なく、残す姿も見られない。しかし、「この減らした給食が残飯になるかもしれない」と意識して量を調節している児童はほとんどいない。また、給食中に落としてしまった食べ物に対し、「もったいない」という意識は薄く、「落としてしまったから廃棄するのは仕方ない」といった雰囲気が作られている。

（3）資料について

本資料は、主人公のライナがさぎに食べられる魚を目の前で見て、「さぎが生きていくためには仕方がない」という考えと「食べられる魚が可哀想」という相反する考えを抱き、その後自分が同様の状況に陥った際に葛藤するという内容である。

さぎと魚の姿を見て他人事として認識させ、いざ自分だったらどうするか、という場面で自分事として考えることを通し、食べることが生命をいただくことであることを認識し、感謝をする心を育んでいくのに適した資料である。

4 ねらい

- 自分がライナだったらどうするかを考えることを通して、食べ物として生命をいただくことに感謝する気持ちを育てる。

5 準 備 （教）場面絵、センテンスカード、ワークシート

6 指導過程

区分		学習活動	指導上の留意点・支援
方向づける	3分	<p>1 日頃、自分が何を食べて生きているかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉（牛・豚・鳥） ・魚 ・野菜 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に対しての関わりの場面を想起させ、資料への方向づけをする。
価値の追求把握・自己の生き方の実感	39分	<p>2 本資料を聞き、自分の考えをワークシートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分がライナだったら子うさぎをたべますか、にがしますか。</p> </div> <p>3 自分の考えと、その理由を発表する。</p> <p><食べる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お腹がすごく空いているから。 ・食べないと自分が死んでしまうから。 ・お肉を食べないと動けなくなるから。 ・自分の為に食べるのは仕方がない。 ・可哀想だけど食べる。 ・感謝の気持ちをもって食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子が視覚的に分かるように、場面絵やセンテンスカードを提示しながら教師が読み語りをする。 ・本時の発問につながる重要なできごとはゆっくり強調して読む。 ・食べるか食べないかを選ばせ、理由もワークシートに書かせる。 ・発言は分類して板書する。 ・多様に出た発言は、整理しながら板書する。 ・理由や付け足しを述べることで、自分の考えの根拠を確かめたり、他人の考えと比較したりする。 <p>【教師の切り返し】</p> <p><食べる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べてしまったら子うさぎは死んでしまうけどそれでも食べるかな。 ・子うさぎだってまだ生きていたいと思うけど食べるよね。 ・子うさぎを食べてしまったら帰りを待つ親うさぎはどう思うかな。 ・子どものうさぎでも食べちゃうの。

		<p><逃がす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・可哀想だから我慢をする。 ・自分で子うさぎを殺したくない。 ・何か他の食べ物を探す。 ・子うさぎだって生きているから。 ・親うさぎが心配をするから。 <p>4 級友の意見を聞き、資料の続きを読んだ上で、ワークシートに子うさぎへのメッセージを記入し発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。 ・ごめんね。 ・命をいただきます。 ・美味しく食べるね。 ・食べて元気になるね。 <p>5 発表された意見をもとに、教師と役割演技を行う。</p> <p>(児) 食べちゃってごめんね。 (教) 良いよ、美味しく食べてね。 (児) ありがとう、いただきます。</p>	<p><逃がす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べなかったら自分はお腹が空きすぎて死んでしまうけど食べないよね。 ・ 他の食べ物は絶対に見つかるかな。 ・ うさぎだって生きているけどライナだって生きているよ。 ・ 死んじゃっているうさぎなら食べても良いかな。 ・ ライナが死んじゃったらお母さんやお父さんはどう思うかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 短い言葉で良いので、ワークシートに子うさぎへの気持ちを書かせる。 ・ メッセージを書けている児童にはワークシートに丸をつけ、次の活動への意欲を高める。 ・ メッセージを書くことが難しい児童には級友の意見を振り返らせ、その中で出てくる気持ちに注目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに書かれていないことでも、教師とのやりとりの中から出た言葉を拾い上げる。
まとめ	3分	6 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の給食の様子を話し、「いただきます」に込められた、食べ物への感謝の気持ちの大切さに気付かせる。